

平成19年度資源評価票(ダイジェスト版)

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

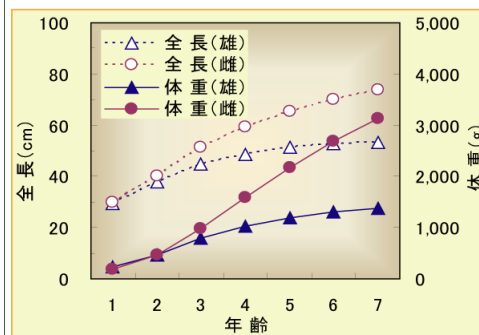
系群名 太平洋南部系群

担当水研 中央水産研究所



生物学的特性

寿命: 10歳(ただし過去には12歳の個体の採集例あり)
成熟開始年齢: 1、2歳(20～50%)、3歳(100%)
産卵期・産卵場: 春季(3～4月)、水深20～50mの砂質域
索餌期・索餌場: 周年、索餌場は生息場と同じ
食性: 主要な餌料は、ふ化仔魚がプランクトン、着底稚魚がアミ類、稚魚以降はカタクチイワシやイカナゴ等の魚類
捕食者: 稚魚はエビジャコ、カニ類等の甲殻類、ヒラメ1歳魚、他の魚類等、成魚は不明

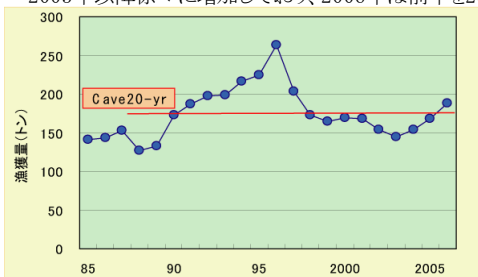


漁業の特徴

和歌山県を東限、鹿児島県大隅半島を西限とする太平洋南部海域でのヒラメ漁業は、主に刺網、小型底びき網、定置網、釣り等によって行われており、漁獲量はこの順番に多い。漁獲対象は1～2歳魚が主体であり、0歳魚の漁獲もある。種苗放流が積極的に行われているが、近年放流尾数が減少しており、1999～2001年では100万尾を下回っている。

漁獲の動向

1995年以降の漁獲量は、1996年に一時的に263トンまで増加して最高の値を示した後は減少した。1998年以降は横ばい傾向にある。漁獲努力量が比較的安定している定置網の漁獲量は、1996年をピークに減少を続けていたが、2003年以降徐々に増加しており、2006年は前年を20トン上回り188トンとなった。



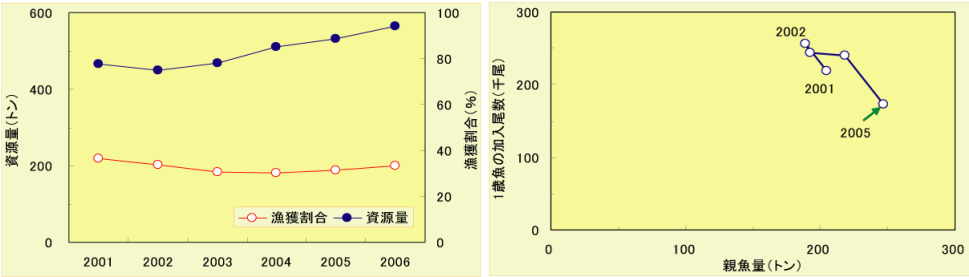
資源評価法

2001年以降の資料を用い、Popeの近似式を用いたコホート解析により年齢別資源尾数と漁獲係数を推定した。Fcurrentは、2005年における年齢別漁獲係数の最も高い値とした。漁獲年齢は4歳までと5歳以上の6階級に分けた。2006年の0～4歳魚の漁獲係数は各年齢の過去4年間の平均値を用い、最高年齢群(5歳以上のプラスグループ)と4歳の漁獲係数は等しいとして計算を行った。自然死亡係数は過去の資料から0.2とした。

資源状態

漁獲量のCave20-yrが178トンに対して、2006年は188トンであったが、過去20年間の上位7番目の値となっている。2006年の資源重量は564トンと推定され、6年間の最高値を示した。また、漁獲量、資源重量ともに増加が4年間継続している。Fcurrentは0.59と推定され、Fmax(0.58)とほぼ同値であった。





管理方策

資源量および漁獲量を高位安定させるために、漁獲係数を引き下げることによって親魚量を維持・増加させることを管理目標とする。加入量が平均的であった場合、現状の親魚量を維持できると推定される漁獲係数($F_{sus}=0.57$)を F_{limit} とした。この F_{limit} によって期待される漁獲量を2008年の ABC_{limit} とした。また不確実性を考慮して $F_{target}=0.8F_{sus}$ とし、 ABC_{target} を算定した。

	2008年漁獲量	管理基準	F値	漁獲割合
ABC_{limit}	172トン	F_{sus}	0.57	30%
ABC_{target}	136トン	$0.8F_{sus}$	0.46	25%

資源評価のまとめ

- 2006年の漁獲量は188トンであり、過去20年間の上位7番目の値であるため、資源水準は中位と判断される
- 漁獲量、資源重量ともに増加が4年間継続しており、資源動向については増加傾向と判断される

管理方策のまとめ

- 資源量および漁獲量を高位安定させるために、漁獲係数を引き下げることによって親魚量を維持・増加させる

資源評価は毎年更新されます。